



◀ 今年のセ・パ 大胆予想	4	総合 2	スポーツ 2	4
■ 「待合室学会」設立へ	2	やくだつ/小説		3
■ ウナギどこへ消えた?	7	ズームアップ		7
■ 広がる給油過疎地	14	本よみうり堂		9
■ 大阪市職員調査「不当」	15	伝統芸/文化		10
		TV・ラジオ	11	商況 6

夕刊 読売新聞

2013年(平成25年)

3月25日 曜日

発行所 読売新聞東京本社 〒104-8243 東京都中央区銀座6-17-1 電話(03)3242-1111(代) www.yomiuri.co.jp

診察待ち時間に栄養指導、健康教育……

病院の待合室で健康教育や栄養指導を行い、一般人も交流できるサロンに……。『待合室から医療を変えよう』をテーマに掲げた研究報告を、東京大学公共政策大学院医療政策実践コミュニティ(HIPAC)のプロジェクトチーム(代表・河内文雄以仁会理事長)がまとめた。河内代表は「具体的な改革につなげるため、『待合室学会』を設立したい」としている。

「待合室学会」設立へ

病院や診療所の待合室を患者教育や情報提供の場として活用することで、より良い医療を実現しようというのが狙い。

研究報告によると、わが国には診療所の待合室が10万か所、病院の総合待合室が9000か所、その十数倍の各科待合室、7万か所だけの30万か所の待合室が存在する。待ち時間の長さなどマイナス面ばかりが強調されがちだが、情報提供や交流の場としての活用など、待合室には「医療資源」として多くの可能性を見いだすことができるとした。同大で24日開かれたシン

東大大学院チームが研究報告

ポジウムには、医師や患者代表、建築や広告、ITの専門家らが参加。住民の健康教育の場に待合室を活用したり、管理栄養士が待合室に出向いて糖尿病患者の栄養指導を行ったりしている実践例のほか、信頼できない医療情報をどう排除するかや、タブレット端末を利用した情報提供、一般人も出入りするサロンとしての活用などが話し合われた。

待合室学会では、理想的な待合室モデルの提供などを行いたい考えだ。河内代表は、「待合室の活用を通じて意識改革が進むことで、医療崩壊の防止にもつながれば」と話している。